

# 先端データ解析論 第2回小レポート

情報理工学系研究科電子情報学専攻 M1 堀 紡希 48216444

2021 年 4 月 13 日

## 宿題 1

ipynb ファイルで別に出します.

## 宿題 2

$l_2$  正則化回帰によってパラメータが以下のように表される.

$$\hat{\theta}_i = (\Phi_i^\top \Phi_i + \lambda I)^{-1} \Phi_i^\top \mathbf{y}_i \quad (1)$$

ただし,  $\Phi_i$  は  $i$  番目のデータを抜いた計画行列で,

$$\Phi^\top \Phi = \sum_j \phi_j \phi_j^\top$$

であるので, これは以下で表される.

$$\Phi_i^\top \Phi_i = \Phi^\top \Phi - \phi_i \phi_i^\top$$

また, 以下が成り立つ.

$$\Phi^\top \mathbf{y} - y_i \phi_i = \sum_j \phi_j y_j - y_i \phi_i = \Phi_i^\top \mathbf{y}_i$$

以上から,

$$\hat{\theta}_i = (U - \phi_i \phi_i^\top)^{-1} (\Phi^\top \mathbf{y} - y_i \phi_i)$$

そして逆行列の公式から  $y_i$  の予測値を以下のように計算できる.

$$\begin{aligned}\phi_i^\top \hat{\theta}_i &= \phi_i^\top (U - \phi_i \phi_i^\top)^{-1} (\Phi^\top \mathbf{y} - y_i \phi_i) \\ &= \phi_i^\top \left( U^{-1} + \frac{U^{-1} \phi_i \phi_i^\top U^{-1}}{1 - \phi_i^\top U^{-1} \phi_i} \right) (\Phi^\top \mathbf{y} - y_i \phi_i) \\ &= \frac{\phi_i^\top U^{-1} (\Phi^\top \mathbf{y} - y_i \phi_i)}{1 - \phi_i^\top U^{-1} \phi_i}\end{aligned}$$

ここで,

$$\tilde{H} = \text{diag}(1 - \phi_0^\top U^{-1} \phi_0, \dots, 1 - \phi_n^\top U^{-1} \phi_n)$$

$$\mathbf{H}\mathbf{y} = \mathbf{y} - \Phi U^{-1} \Phi^\top \mathbf{y}$$

を用いると  $\|\hat{H}^{-1} \mathbf{H}\mathbf{y}\|^2/n$  をノルムの計算によって以下のように計算できる.

$$\frac{1}{n} \|\hat{H}^{-1} \mathbf{H}\mathbf{y}\|^2 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left( \frac{-y_i + \phi_i^\top U^{-1} \Phi \mathbf{y}}{1 - \phi_i^\top U^{-1} \phi_i} \right)^2$$

一方で, 二乗誤差は,

$$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (\phi_i^\top \hat{\theta}_i - y_i)^2 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left( \frac{-y_i + \phi_i^\top U^{-1} \Phi \mathbf{y}}{1 - \phi_i^\top U^{-1} \phi_i} \right)^2$$

であるので, 二乗誤差が,

$$\frac{1}{n} \|\hat{H}^{-1} \mathbf{H}\mathbf{y}\|^2$$

であることが示された.